



# 弘大農学生命科学部 同窓会会報

## 第22号

平成16年6月1日 発行  
発行 弘前大学農学生命科学部同窓会  
TEL 0172-36-2111  
FAX 0172-39-3750  
振替 02340-7-564  
印刷 (株) 笹 軽 印刷



## 50周年記念事業へのご協賛を

農学生命科学部同窓会長 三上 翼 たつみ

はじめに

私共の母校・弘前大学は、この4月1日から国立大学から国立大学法人弘前大学として装いも新たに第一歩を踏み出しました。

このような状況のもと農学生命科学部は、5つの学部を擁する全国的には中規模の国立大学法人弘前大学の中で、「地域に密着し、

地域と共に歩む弘前大学」の枢要な学部としての使命と期待を担うところとなりましたが、時あたかも私共が直接お世話になった往時の農学部、そしてその後、発展的に充実・改組され今日を迎えている新生・農学生命科学部が、明・平成17年7月1日をもって学部創立50周年という誠にもって、めでたくも記念す



測量学実習 (2004年4月 農学生命科学部構内)

べき節目の時を迎えることになりました。

### 記念式典は明年7月2日

現在の農学生命科学部の前身、国立弘前大学農学部は、昭和30年（1955年）7月1日に文理学部農学科を発展的に充実・改組し、独立の学部としてその設置が認可され、ここに大学当局はもとより、県・市町村・農業関係者の永年の悲願・要望が実を結び、学部生誕の慶事を見るに至ったのであります。

その後、歴代学部長を始めとする大学当局のご尽力と地元関係者のご理解・ご協力を得ながら順次拡充整備がなされ今日を迎えておりますが、法人化後においては自立・自助の基本理念のもと、特に「地域に根ざし、地域と共にある大学の構築」に向け積極的に取り組むことが求められていますが、私共・同窓会としては、今後とも農学生命科学部が青森県のみならず、北東北・青函地域を始めとする北日本地域と共に歩む学部として、法人化のメリット・優位性を活かしつつ、これまで以上に地域に貢献・寄与する学部づくりがなされることを期待するものであります。

このような状況を踏まえ私共同窓会は、新生・農学生命科学部が名実共に地域に貢献し、他に誇り得る学部として前進・飛躍する期待・願望を込め、このたび豊川好司学部長を始めとする大学・学部当局並びにPTA的組織である「後援会」と一体となり、「弘前大学農学生命科学部創立50周年記念事業」を実施することに致しました。

記念式典は明・平成17年7月2日（土）、大学構内の「弘前大学創立50周年記念会館」において実施する計画であります、事業の

詳細については同封の趣意書をご拝読戴ければ幸いに存じます。

### 伝統は人々の営みにより創られる

本年3月23日、国立弘前大学としての最後の卒業生等を送る卒業式における遠藤学長の式辞から、私は農学部創設にご尽力された関係者のご功績、とりわけ青森県内のりんご生産者を始めとする農業関係者からの学部創立を懇請しての多額な寄付金協賛があったという、心に沁みる情愛に満ちた事績があったことを知らされました。

5000有余名の農学生命科学部の同窓生の皆さん!! 私共は今を去る49年前の昭和30年7月、かかる往時の関係者の並々ならぬご労苦・ご尽力により創設がなされ、なおまたその事績を礎とし、地域の期待・要望に対応すべく営々と試験研究・教育指導に取り組んでこられた大学・学部当局の方々に、ここに改めて関係者共々深甚なる敬意と感謝を申しあげながら、新生・農学生命科学部が、このたびの法人化を契機に更なる前進・飛躍を遂げて戴くための一助とすべく、ここに創立50周年記念事業の名のもとに、会員の皆様からのご厚志・拠金についてのご協賛方をお願いすることになりました。

ここに謹んでお願いを申し上げる次第であります。

それは何よりも、私共の母校の伝統・歴史は、地域関係者のご理解ご協力を得ながらも、まずは大学当局及び同窓生等、学部に関係し熱き想いを馳せる方々の理解ある前向きな営みによってこそ創られるものであると思うが所以であります。





## 国立大学法人と 学部創設50周年記念に向かって

農学生命科学部長 豊川好司

弘前大学は今年度4月1日から国立大学法人になりました。

そのために、弘前大学は自主性と自律性が高められて、教育と研究が今まで以上に自由活発に展開されることになりました。国から一定額の事業予算を交付金として頂きますが、国立法人弘前大学として社会的活動の権利・能力を付与されて、自律的に活動できるようになりました。いえ、していかなければならなくなりました。

弘前大学の平成16年度予算額は約260億円ですが、国からの学生定員と教員・事務職員定員に基づく運営交付金約45%、このほかの約55%は学生が納める授業料などの学生納付金による収入と、研究費としては国からの科学研究費や共同研究費、企業などからの外部資金などによって運営されることになりました。しかし、人件費が約60%を占めますので、経営は容易ではないことが推察できます。今までの国立大学は運営予算をほとんど全部国から支給されていましたが、これからはそうはいかなくなりました。

弘前大学は全国の国立大学の中では中規模の総合大学ですが、本学の資産は大都会にある大きな大学とは2桁も違う程少ないのが実情です。国立大学法人のスタート時点から資力も桁違いですから、私たちは法人化に大きな危機感を持ってのスタートです。以上のような資産状況ですが、国の高等教育、即ち従来の国立大学に対するこのような事態は、国会、即ち国民が決めたことであり、これまでの国立大学は肅々と法人経営を押し進めてい

かなければならない訳です。

大学教育は申すまでもなく、これからの日本を、また人類を支える自覚をもつ若いリーダーを育てることを目的としています。社会が求める学生を育て、有為な人材を世に送り出すことにあります。国立大学法人となっても目的と使命は変わることはありません。弘前大学はこのため、学生の教育に関して、教職員の莫大なエネルギーと予算を投入しはじめています。授業科目の抜本的見直し、学生センターの新築、学生就職支援センターの新設、大学構内の環境整備、学生課外活動の部室新築、運動場整備、等々を現在集中的に行っている最中です。同窓生の皆さんが母校を訪れると、かつて学んだ頃の構内とは思えない新しい？風景に驚くと思います。このように、学生にひととき工夫された授業と充実された学生生活を送らせることから、優れた学生を育て、優れた人材を世に送り出すことを主眼とし、弘前大学は大学の存亡をかけて全学を挙げて全力を傾注しています。

その大学の存在価値は社会の皆さんが決めることです。即ち、卒業生の社会貢献度が大学評価となっています。人々のために、この大学が高等教育機関として必要であると言う共通認識が根本的に求められています。もちろん、卒業生を教育し、送り出す大学側、特に教員の使命は計り知れない大きなことです。そして本農学生命科学部の存在価値の良い面と至らぬ面を一番良く分かっているのは同窓生です。ですから、本学部の最も良き理解者

である同窓生が中心になって、本学部を充実していくことが肝心なことであり、弘前大学は市民や同窓生の期待に十分対応できる教育・研究を行い、社会のために役立つ人材を育てなければなりません。

数百年の歴史をもつ世界の大学には、市民のためゆまない支援とその期待に応えるために社会的地位の向上を絶えず目指す大学とによって脈々と運営されてきました。本学部は来年2005年7月に創設50周年を迎えます。50周年は数百年にわたって市民の中にしっかりと根を張っている由緒ある大学と比べてまだまだ短い年数ですが、しかし、50周年記念に向

かって明らかなことは、2003年度現在で5091名の有為な学部卒業生、485名に及ぶ修士、さらに71名の博士の輩出があります。またこのような状況の中で、地域に根ざした種々の研究成果はもとより基礎的研究成果が上げられ、これらの成果は地域への応用と、さらに世界的にも展開されています。

国立大学法人・弘前大学農学生命科学部の将来は、偏に清白な同窓生の学部への暖かい支援と厳しい評価にあると思っています。同窓生の皆さんには、本学部のさらなる発展のために、今まで以上のご理解とご支援をお願い申しあげる次第です。

### 退官教官からの寄稿

## 卒業生は大学の宝

安藤喜一

僕は、岩手大学農学部で作物学を専攻し、1961年に卒業した。就職も決まっていたが、専攻科（大学院ができる前の制度）に進学し、1年間昆虫学を学んだ。1962年に農水省果樹試験場興津支場（静岡県清水市）に就職し、3年間ミカンの害虫の研究をした。気候穏和、富士山の眺め美しく、ミカン類をタラ腹食べられるし、その上研究条件も恵まれていたが、就職して3年経った1965年3月に、思いがけなく岩手大学の昆虫学の教授から電話があり、岩手大学に修士課程の学生として来てほしいとの要望を受けた。教授が2年後に退職になるので、その時僕を助手に採用するが、修士課程ができたので助手になる時に修士の学位を取得しておいた方がよいとのことだった。僕は当時身軽であり、何でも「やるかやらないか」を迷った時はやることに決めていたの

で、岩手大学へ行く決意をした。

しかし、研究室長にその件を話したら、場長へと修士課程の学生になる話が伝わった。場長は「とんでもない話だ。大学の言い分はムシが良過ぎる」「大学の助手を試験場の研究員に採用してくれと頼まれるが、研究員から学生になるバカはどこにいるか」「場長がそんなばかげた話は許可しない」と大学に伝えろと言われた。

室長からは「君が退職するなら農水省として岩手大学卒の学生は、今後一切採用できない」「君がかんきつ虫害研究室を永久に壊すことになる」「懲戒免職にするぞ」とたたみかけられた。それだけ怒られたら、このまま試験場にいても、かえって気まずいと思って退職を決意し、大学院の入試を受けた。当時は受験科目が専門2科目と外国語2科目であ



り、ドイツ語は何の準備もしなかったのでは  
ぼ0点であった。大学院修士課程ができて2  
年目であり、大学側では学生を何とか集めな  
ければならん事情もあり問題なく合格した。  
修士課程修了後に予定通り助手に採用され、  
3年後に弘前大学へ助教授として赴任し、退  
職までの34年間を意欲的な学生に恵まれ、良  
い研究環境下で研究できた。

その間に多くの卒業生を世に送り出した。  
大学の指命は研究・教育だが、その結果とし  
て卒業生が「食えるようになる」、欲を言え  
ば専門を生かして食えるようになれば理想  
と思う。就職試験を受けるのは学生であり、  
教官はただ見守るだけだが、教官の雰囲気、  
アドバイスは重要と思っている。

学生は一人一人異なり、個性があった。僕  
は人の性格に欠点はないと思っている。長所  
と短所は裏表一体をなし、長所が短所であり  
同時に短所が長所だと思う。短所を直すより  
は長所をのばす方が得策だと思う。



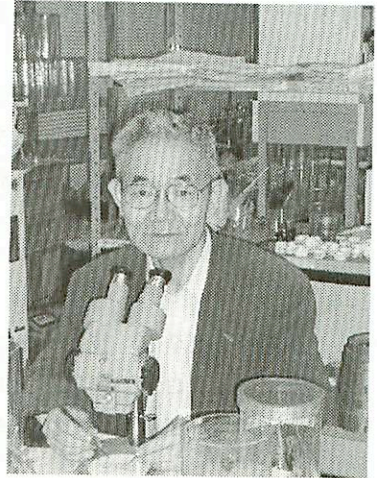
### 特別寄稿

## 青木名誉教授より農学生命科学部に 寄贈された島善鄰先生揮毫の掛軸

原 田 幸 雄

かねて荒川教授を通じ弘前大学付属図書館  
のリング研究資料コーナーの充実のため青木  
二郎先生に蔵書のご寄贈をお願いしていたと  
ころ、先生からご了解が得られ、昨年12月9  
日荒川教授とともに弘前市中野のお宅を訪問  
した。久闊を叙し、学部近況をご報告申し  
上げ、また先生からは在職中の思い出話しな  
どを伺いしばし歓談した。この中で、来年の  
学部創立50周年記念をひかえ古い資料やゆか

最近大学  
では授業の  
重要性が叫  
ばれている  
が、講義や  
演習で学生  
が知的好奇  
心を燃え上  
がらせる例  
は残念ながら  
多くないだ  
ろう。研究  
室と専攻  
生との関係



実験室で（2004年3月）

こそ、大学の本質であり、社会への責務は教  
官の研究と学生に対する真摯なサービス精神  
が求められると思う。実は同窓会も研究室の  
充実があつて成り立つ組織であり、卒業生こ  
そ大学の一番の宝だと思う。

りの品を集めたいとの豊川学部長のご意向を  
お伝えしたところ、島善鄰（よしちか）先生  
の書かれた掛軸を二幅お持ちであることを話  
され、その学部へのご寄贈も快諾された。結  
局この日、二人は130冊余のリング関係図書  
とともに、島先生書の二幅の掛軸を預かって  
帰校した。その後本年2月20日豊川学部長が  
先生のお宅に伺い掛軸寄贈に対する感謝状を  
差上げた。一方、蔵書の寄贈に対しては、3



月3日付で弘前大学付属図書館長からの感謝状が先生にお渡しされた。

以下ご寄贈の掛軸二幅を写真で紹介するとともに、参考までに読み下し文を付した。後者については本学高松亨明名誉教授のご教示を得た。

#### 一幅

人生四十未全衰 我為愁多白髮垂  
何故水辺双白鷺 無愁頭上亦垂糸  
昭和丁酉初夏 為青木賢臺録  
白居易詩 善鄰学人書

#### 二幅

果樹曾從海外伝 南園北圃倍繁延  
就中尤賞林檎美 紅玉累々十月天  
昭和三十四年春 録矧川先生詩  
青木賢臺清嘯 善鄰学人書

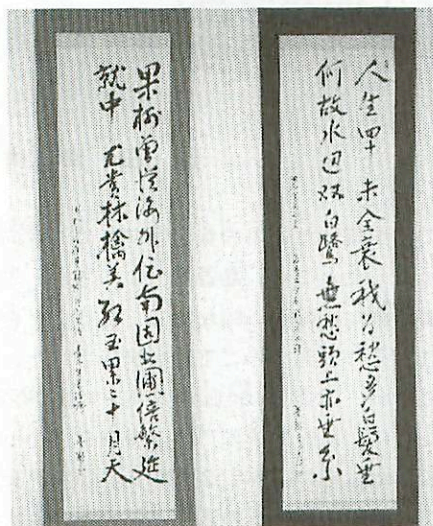
一幅の詩の本当の意味、またこれを詠んだ白居易の真情を残念ながら筆者はよく理解していない。またこの詩を揮毫された時の島先生のご心境も解らない。昭和丁酉は昭和32年

に当たり、当時島先生は農学部園芸学の教授の任にあった。いずれにせよ先生の人生観・処世訓の秘められた一書のような気がしてならない。

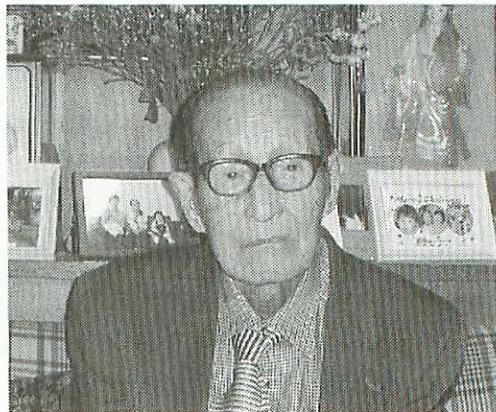
二幅の詩はわが国に新しく入った果樹が広まっていく情景をのべ、特にリンゴ（林檎）の素晴らしさを十月の青空に映える鈴成りの紅玉になぞらえ贅えたもので、本学部にゆかりの品として好個の内容である。当初詩の作者矧川（しんせん）先生を特定しあぐねていたところ研究室の院生浅間典孝君がインターネット上で志賀重昂（しげたか）のペンネームであることを調べてくれた。それによれば、故郷の岡崎を流れる矢作川（旧表記矢矧川）に由むという。明治17年札幌農学校を卒業後、地理学者・政治評論家として縦横に活躍した志賀は島先生の大先輩だった。「矧川先生」の重みが自ずと伝わってくる。

なお研究室の学生島山聡君の尊父島山健造氏は2つの掛軸の保管用に立派な桐の箱を製作し寄贈された。

このように多くの方々のご厚意・ご協力によって、本学部草創期にゆかりのある品が大学に寄贈され大事に保管されるに至ったことを喜び、ここに関係各位に改めて御礼を申し上げる。（農学生命科学部 教授）



島善鄰先生の書による掛軸



青木二郎名誉教授（2004年5月ご自宅で）



## 平成15-16年度同窓会総会報告

平成15-16年度総会が平成15年9月13日、14時から五所川原市のホテルサンルート五所川原で開催され、平成13-14年度事業および決算報告、平成15-16年度事業計画および予算案、ならびに平成15-16年度役員案が承認されました。また、母校50周年記念事業の準備状況についても報告されました。

### 1. 平成13-14年度事業報告

#### (1) 平成13年度事業報告

平成13年5月15日 全学同窓会援助(会費) :  
前年度分  
5月15日 卒業・修了生記念写真送付  
8月20日 母校援助費として30万円寄贈  
11月8日 福島県支部総会(泉教官出席)  
平成14年3月22日 卒業・修了生同窓会入会祝賀会  
3月29日 全学同窓会援助(会費)

平成14年11月25日 東青支部総会(宇野、豊川、  
工藤啓、加藤幸教官出席)  
11月30日 福島県支部総会(卜藏、加藤  
幸教官出席)  
平成15年3月20日 卒業・修了生同窓会入会祝賀会  
3月24日 全学同窓会援助(平成14年度  
会費)

#### (参考)

#### (2) 平成14年度事業報告

平成14年5月7日 卒業・修了生記念写真送付  
7月5日 同窓会幹事会開催(青森市)  
7月12日 母校援助費として30万円寄贈  
8月30日 会報No.20号発行  
10月5日 同窓会役員会・総会開催  
(弘前市、さくら亭)

平成15年4月15日 卒業・修了生記念写真送付  
5月30日 母校援助費として30万円寄贈  
6月6日 同窓会臨時役員会(弘前大学)  
7月17日 全学同窓会援助(平成15年度  
会費)  
7月23日 会報No.21号発行  
(平成15-16年度会費の納入  
依頼)  
9月13日 同窓会総会(五所川原市、ホ  
テルサンルート)

(以上は、平成14年10月5日開催の総会で報告済み  
だが、再掲)



同窓会総会で挨拶する三上会長

## 2. 平成13-14年度決算報告

## 収 入

(単位：円)

項 目	予 算	決 算	摘 要
前年度からの繰越金	2,307,841	2,307,841	
正 会 員 会 費	5,000,000	2,845,000	達成率57%
入 会 費	2,450,000	2,650,000	
広 告 料	60,000	0	
利 息	2,000	958	
振 替 手 数 料	-100,000	-56,170	
合 計	9,719,841	10,224,807	

## 支 出

(単位：円)

項 目	予 算	決 算	摘 要
名 簿 発 行 費	2,200,000	0	
会 報 印 刷 費	1,600,000	1,238,975	予算比77%
歓 迎 会 費	1,200,000	927,367	予算比77%
支 部 後 援 費	946,000	185,030	予算比20%
母 校 援 助 費	600,000	600,000	
会 議 費	400,000	159,067	予算比40%
庶 務 ・ 管 理 費	100,000	57,671	予算比58%
通 信 ・ 印 刷 費	60,000	99,195	予算比165%
慶 弔 費	10,000	1,160	予算比12%
全 学 同 窓 会 会 費	296,000	444,000	予算比150%
予 備 費	2,307,841	4,035,764	次年度繰越金
合 計	9,719,841	10,224,807	

## 3. 平成15-16年度事業計画

- |                        |                              |
|------------------------|------------------------------|
| (1) 役員会の開催             | (7) 全学同窓会援助                  |
| (2) 平成15-16年度役員会・総会の開催 | (8) 支部活動への援助(教官・役員の派遣)       |
| (3) 同窓会会報の発行(21、22号)   | (9) 農学生命科学部創設50周年記念事業への協賛・援助 |
| (4) 同窓会名簿の発行(平成16年予定)  | (10) その他必要と認められる事業           |
| (5) 卒業・修了生同窓会入会祝賀会     |                              |
| (6) 母校援助費寄贈            |                              |



## 4. 平成15-16年度予算

収 入

(単位：円)

項 目	15-16年度予算	摘 要
前年度からの繰越金	4,035,764	前年度比175%
正 会 員 会 費	5,000,000	前年度比100%、1,000人×@5,000
入 会 費	2,450,000	前年度比100%、(175人×@10,000×0.7)×2年
広 告 料	60,000	前年度比100%
振 替 手 数 料	-100,000	前年度比100%、@70
利 息	1,000	
合 計	11,446,764	

支 出

(単位：円)

項 目	15-16年度予算	摘 要
名 簿 発 行 費	2,200,000	前年度比100%、平成16年度名簿発行予定
会 報 印 刷 費	2,700,000	前年度比169%、年1回×2年分
歓 迎 会 費	1,200,000	前年度比100%
支 部 後 援 費	950,000	前年度比100%
母 校 援 助 費	600,000	前年度比100%、年300,000
会 議 費	300,000	前年度比75%
庶 務 ・ 管 理 費	100,000	前年度比100%
通 信 ・ 印 刷 費	100,000	前年度比167%
慶 弔 費	10,000	前年度比100%
全 学 同 窓 会 会 費	296,000	前年度比100%、年148,000×2年分
予 備 費	2,990,764	前年度比130%、次年度繰越分
合 計	11,446,764	

## 5. 平成15-16年度 農学生命科学部同窓会役員

役職名	氏 名	勤 務 先	卒業年	教室名
名誉会長	宇 野 忠 義	弘前大学農学生命科学部長		
顧問	横 山 宏	元農学部同窓会長	28	農製
	岩 井 邦 彦	元農学部同窓会長	32	土肥

	中尾良仁	元農学部同窓会長	32	土肥
	油川孝男	前農学生命科学部同窓会長	37	農経
	桜庭誠蔵	前農学生命科学部同窓会副会長	36	畜産
	豊川好司	前農学生命科学部長	38	畜産
会 長	三上 巽	青森県原子力施設安全検証チーム	42	農経
副 会 長	今 哲 広	青森県農業会議	42	農経
	桜庭和範	弘前市教育委員会	48	作物
監 事	工藤啓一	弘前大学農学生命科学部	38	作物
	西川明満	青森県農協中央会	45	作物
評 議 員	大場真紀	芝管工(株)	38	農経
	池田八郎	八戸市役所	43	植病
	神 敏 勝	藤崎園芸高校	43	育種
	斉藤一志	(株)国土社	45	造施
	佐藤鉄雄	青森市役所商工観光部	45	育種
	蒔苗龍一	(株)東北建設コンサルタント	45	農地
	相馬敏光	(株)ササキコーポレーション	45	農機
	伊藤正光	青森県農林部農政課	46	育種
	木立正博	黒石市役所都市開発課	46	造施
	田村優一	青森県商工政策課	46	育種
	及川 博	青森県農業会議	47	農経
	木村郁夫	(自営)キムラ園芸種苗	47	園芸
	五十嵐啓真	(自営)五十嵐農場	48	農機
	木村利幸	青森県農業試験場	48	昆虫
	工藤 保	むつ市役所経済部	48	土肥
	福士有一	藤崎園芸高等学校	48	育種
	蓮井裕二	東北女子短期大学	49	生化
	川嶋浩三	青森県りんご試験場	50	昆虫
	泉 完	弘前大学農学生命科学部	53	水利
	蛭名正樹	弘前市役所土木部道路維持課	53	農地
	工藤博喜	津軽尾上農協	54	果樹
	古館行雄	三本木農業高校	55	蔬花
	奈良岡 馨	青森県工業試験場	56	農利
	田中 満	五所川原農林高校	58	育種
	黒滝英樹	青森県経済連	60	流通
総務幹事	工藤 明	弘前大学農学生命科学部	47	水利
情報幹事	戸羽隆宏	弘前大学農学生命科学部	50	農利
会計幹事	加藤 幸	弘前大学農学生命科学部	4	造施



## 6. 母校創設50周年記念事業について

農学生命科学部創設50周年記念事業に関しては、平成15年9月9日に第2回実行委員会が開催され、同窓会からは三上会長、工藤総務幹事が出席した。以下の事業が検討された。

- |                |                       |
|----------------|-----------------------|
| (1) 記念式典並びに祝賀会 | (4) 記念誌の刊行            |
| (2) 記念講演会      | (5) 大型図書(記念図書)の購入     |
| (3) 学部環境整備(仮称) | (6) 地域振興支援特別研究の創設(仮称) |

### 同窓会名簿の発行について

事務局では、本年11月に名簿発行をすべく準備を進めております。

今春で、同窓生が5,000名を数えたのと同時に、連絡先不明者が大幅に増加しております。また、昨今は自宅住所、電話番号の公開を望まない風潮が高まっており、旧来のような名簿の発行はすでに難しくなっております。しかしながら、同窓生の間で連絡を密にできる環境を整えることも、同窓会の重要な使命でもありますので、名簿も発行は不可欠とも考えられます。

そこで、今回発行の名簿は、ご自宅、実家、勤務先のいずれか一つの住所・電話番号を記載することとさせて頂きたいと思っております。すでにご連絡いただいた方は、自宅(または帰省先)を優先し、不明の場合は勤務先を掲載するよう考えております。同窓会名簿は、個人の情報を取り扱うものであり事務局でもその取り扱いにつきましては、万全を期す所存ではありますが、名簿や掲載内容に関してご要望、ご意見がありましたら事務局・加藤幸までご一報下さいますようお願い致します。

また、同窓会ではホームページ(<http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/dosokai/main.html>)を開設しております。同窓生個人や同窓会支部開設ページとのリンクなどホームページに関するご要望、ご意見がありましたら名簿と同様に、事務局・加藤までご一報下さいますようお願い致します。

## 支部だより

岩手支部「大鵬(おおとり)の会」  
総会報告

平成15年11月28日に盛岡市中心部にあるエスポワールいわてで平成15年度総会が開催された。参加者は昭和36年卒から平成13年卒まで、広い年代に渡っていた。大変な盛会で、今回参加人数24名は過去最高とのことであった。弘前からは原田幸雄先生と戸羽が参加した。阿部弥之会長(44年園芸卒)のご挨拶に始まり議事終了後、藤田昭次氏(40年農経卒)の音頭で乾杯後懇談が行われた。懇談の中で各出席者の自己紹介と在学中の思い出話や近況報告がなされた。学部の近況と平成17

年に学部が創立されて50周年を迎えることが、戸羽から紹介された。岩手県庁内では弘前大学農学部(農学生命科学部)出身者が地元大学出身者に伍して活躍しているという、大変に心強い報告があった。思い出話は尽きなかったが、北田金美氏(38年作物卒)の音頭で一本締めを行い、お開きとなった。

御準備頂いた支部事務局の皆様には厚く御礼申し上げます。報告と致します。

(文責 戸羽隆宏)



岩手支部総会に参加した皆さん



## 平成15年度卒業・修了生の祝賀会ならびに就職・進学先

平成15年度の弘前大学卒業証書授与式が平成16年3月23日午前10時から弘前市民会館で行われた。農学生命科学部の本年度の卒業生は183名で、農学生命科学部の第三回生にあたる。大学院の学位記授与式は午後1時から弘前大学創立50周年記念会館で行われ、農学生命科学研究科になって初めての修了生50人に対して、農学修士の学位が授与された。平成15年度末現在で、農学部と農学生命科学部を合わせての卒業生は5,092人に、研究科の修了生は農学研究科と農学生命科学研究科を合わせて485人になった。

授与式終了後、同窓会主催で、記念写真撮影（校舎正面玄関前）および祝賀会（大学会館）が行われた。



三上巽同窓会長の祝辞



佐々木信介名誉教授による乾杯



卒業・修了生

本年度の卒業・修了生の就職先および進学先は以下の通りである（括弧内に数字を記入した場合以外は各1名である）。

#### 生物機能科学科（卒業者数35人）

大塚製菓（株）、小山消防署、（株）環境工学、（有）グリーンファーム、（株）仙台進学プラザ、（財）自然農法国際研究開発センター、ダイエー観光（株）、（株）ダイテック、（株）武富士、（株）はる、弘前大学医学部、プロミス（株）、ホームック（株）、（株）源吉兆庵、（有）山下畜販、（株）ユニバース、弘前大学研究生、九州大学大学院、千葉大学大学院、東北大学大学院、新潟大学大学院、弘前大学大学院（8）、横浜市立大学大学院

#### 応用生命工学科（卒業者数51人）

アイ・ティ・フロンティア（株）、イカリ消毒（株）、大塚製菓（株）、（株）カインズ、（株）カネマツ、木村食品工業、向学舎グループ、千秋薬品、帝国臓器製菓（株）、東京サラヤ（株）、日本科学未来館、日本サプライヤー（株）、ノボノルディスクファーマ（株）、函館湯の川プリンスホテル、ひらせ工務センター、弘前大学医学部（2）、福島県庁、（株）フリーデン、（株）三菱化学BCL、カリフォルニア大学、静岡県立大学大学院、東北大学大学院、弘前大学大学院（22）、北海道大学大学院（3）

#### 生物生産科学科（卒業者数57人）

（株）秋田銀行、キセキ東北、大内振興化学（株）、（株）オーディンフーズ、（有）グリーンハート T & K、K.K. ドコモ、（株）ケーヨー、（株）コイワ、（株）サンデー、（株）シー・アイ・シー、JA ふらの、全国農業共同組合中央会、ダイナシティ、（株）丹波屋（2）、（株）テクノル、東京フロード（株）、十和田市農協、（株）長沼、ノエ

ピア化粧品、阪和興業、ヤマダイ（株）、（株）ライフフーズ、農業自営（2）、（独法）家畜改良センター、青森県庁、岩手県庁、福島県庁、北海道庁、青森市役所、三沢市役所、大鰐町役場、高校教員、聖路加看護大学、札幌スクールオブビジネス専門学校、日本動物専門学校、大阪大学大学院、岡山大学大学院、筑波大学大学院、東京大学大学院、東北大学大学院（3）、弘前大学大学院（6）、北海道大学大学院（2）、横浜市立大学大学院

#### 地域環境科学科（卒業者数40人）

あきたこまち生産研究会、国際航業、（株）三貴商事、JA那須南、スバル自動車、仙都漁業、東北労働金庫（2）、北海道信用組合連合会、（株）メノガイア、国土交通省北海道開発局、東北農政局（2）、青森県庁（2）、静岡県庁、宮城県庁、旭川市役所、弘前大学研究生、弘前大学大学院（8）

#### 大学院農学生命科学研究科（修了者数50人）

（株）栄光、JA 秋田しんせい、JA 塩尻市農協、国土環境（2）、（株）東京エレクトクス、東京ベンチャーセーフネット、日産化学工業（株）、日本農産工業（株）、（株）ハー・ストーリー、パシフィックコンサルタント、富士通青森システムエンジニアリング、北興化学工業（株）、三菱化学 BCL、（株）武蔵野、森北出版（株）、山崎製パン（株）、（株）ヤマダイ、青森県中学校教員、秋田県衛生科学研究所、青森県臨時職員、国土交通省東北整備局、青森県庁（2）、秋田県庁、神奈川県警察、新潟県庁、宮城県庁（3）、北海道庁（2）、岩手大学大学院博士課程（7）



## 新任教員の自己紹介



菊池 英明 教授 (細胞工学)

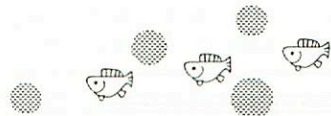
2004年4月1日に応用生命工学細胞工学講座に着任いたしました。1973年に、東北大学理学研究科化学専攻を修了後、幸運にも抗酸菌病研究所に助手として職を得ることができました。平成5年には、研究所の改組により加齢医学研究所と名称は変更になりましたが、同じ研究所で癌の研究に従事しておりました。この間、1983年から1985年のあいだ米国テキサスの MD アンダーソン癌研究所に留学した以外は、仙台で研究生活をしておりまして、弘前という美しい古都で新しい研究室を立ち上げるという経験は、私の人生のなかでも深い思い出になることと思っております。長いあいだ癌の研究をしてきましたが、癌細胞を遺伝子の発現異常の細胞ととらえ、遺伝子の転写発現誘導に関わる転写因子及びクロマチンの構造変化という観点から基礎的な仕事をしてきました。弘前大学では、いままでの研究を続けながら、まわりの農学系の方々とも一緒にできるような研究テーマも考えながら仕事をやっていこうと考えておりますので、よろしく御指導のほどをお願い致します。



藤崎 浩幸 助教授 (地域環境計画学講座)

2003年11月1日付で弘前大に着任しました。1960年兵庫県姫路市生まれ。1984年3月東京大学農学部卒業、大学院に進学。1988年9月博士課程を中途退学して、弘前大学農学部農地工学講座助手に。1993年5月に岩手大学農学部講師となりましたが、ひょんなことで、今回、約10年ぶりに弘前に戻ってきました。単身赴任なので、弘前と盛岡とを行ったり来たりですが、久しぶりの弘前大学と弘前の街は、変化に驚いたり、昔のままでホッとしたりです。

専門は農村計画で、農業生産性の向上や農村住民生活の利便性向上を図りつつ、環境とも調和した農村整備のあり方を考えたり、農村部の地域活性化を住民参加で行ったり、都市との交流を進めながら行っていく、むらづくりのお手伝いをしています。今後、青森県内の農村について、実情を見聞きしながら、少しでもお役に立てればいなあと考えています。



## 教員人事

### 新任

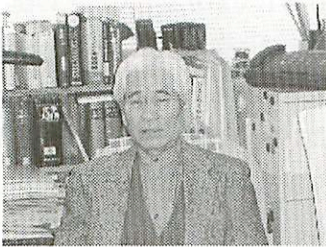
菊池 英明 教授 (細胞工学講座)  
平成16年6月1日

藤崎 浩幸 助教授 (地域環境計画学講座)  
平成15年11月1日

### 退官

平成16年3月31日

河井 聖司 講師 (生命理学講座)  
安藤 喜一 教授 (環境生物学講座)  
富田 正徳 助教授 (園芸学講座)  
ト蔵 建治 教授 (農業生産学講座)



河井聖司先生 (2004年3月に研究室で)

### 昇任

黒尾 正樹 教授 (生命理学講座)  
平成15年12月1日

五十嵐康雄 教授 (生体機能工学講座)  
平成16年1月1日

殿内 暁夫 助教授 (生体機能工学講座)  
平成16年4月1日

牛田 千里 助教授 (生体情報工学講座)  
平成16年4月1日

嗟峨 紘一 教授 (園芸学講座)  
平成16年2月1日

張 樹槐 助教授 (園芸学講座)  
平成15年12月1日



ト蔵建治先生 (2004年2月に講義室で)



## 会費納入と住所通知のお願い

本年11月に同窓会員名簿の発行を予定しております。経費の関係から、会費を納入頂いた会員のみにお送りいたします。平成15-16年度会費を未納の会員におかれては、会報21号をお送り致しました折に同封致しました振込用紙で、会費5,000円をお納め下さいませようお願い致します。

転勤や転居で住所が変更になりましたら、事務局までご一報下さい。

### 同窓会事務局

〒036-8561 弘前市文京町3 弘前大学農学生命科学部同窓会

工藤 明 電話 0172-39-3842(FAX兼用) E-mail akudo@cc.hirosaki-u.ac.jp

戸羽 隆宏 電話 0172-39-3786 E-mail ttakki@cc.hirodaki-u.ac.jp

加藤 幸 電話 0172-39-3869(FAX兼用) E-mail kato@cc.hirosaki-u.ac.jp